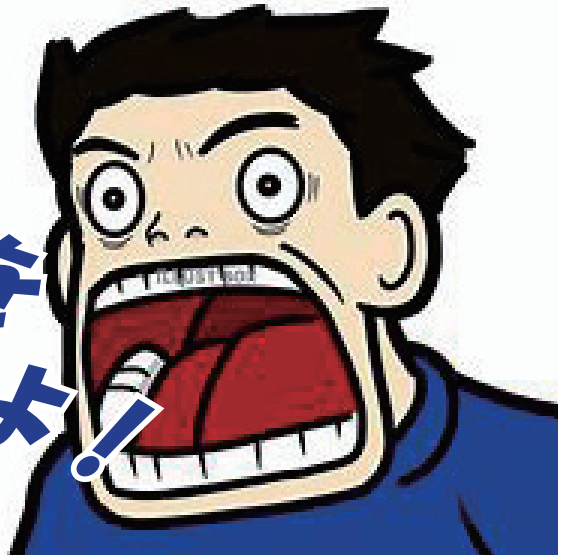


# 国と東電は、 汚染水の海洋放出を 直ちに中止せよ



## 海洋放出差し止めを求めて提訴

9月8日、福島県の漁民と市民約150名が、国と東電に対し、処理汚染水の海洋放出差し止めを求め、福島地裁に提訴しました。

国と東電は、「関係者の理解なしに汚染水の処理はしない」と漁協に念書まで入れて約束していたのに、8月24日に沖合1<sup>号</sup>に先立新設した排出口から海洋放出を始めました。デブリを冷却した処理水にはトリチウムの他、セシウム、ストロンチウム、ヨウ素、炭素など放射性物質が含まれています。国や東電は、「基準値以下に希釈」と説明していますが、薄めても放射性物質の総量は減りません。備蓄タンクの大型化や増設、モルタル固化など陸上管理するための具体的提案もありましたが、検討すらしませんでした。

国と東電には明らかに国際的責任があります。漁民の生業を脅かし、生存の基盤を破壊することは人権侵害です。風評被害の魚介類を買い取るという損害補償は「海に生きる生活」の継続性・持続性を保証するものではありません。最後は金で黙らせるというモラル喪失の原発政策を露骨に示したものです。

## 国は、廃炉計画を見直せ！

汚染水は、事故で解け落ちたデブリの冷却水と、建屋の亀裂から流入する地下水や雨水が混合したもので、64種類以上の放射性物質が含まれています。

凍土壁など、膨大な資金を投入して建屋内への雨水流入を抑制しましたが、今も1日に140トンの汚染水が発生し続けています。海洋投棄を30年余続けても根本的な解決にならないことは明白です。

国・東電はスリーマイル原発事故を教訓に、原子炉を満水状態にしてデブリを取り出す冠水方式を採用して廃炉計画を作成。しかし、原子炉・格納容器、配管類が地震と経年劣化で各所に穴が開き、冠水は不可能であることが明らかになっています。また、わずか1<sup>号</sup>のデブリを取り出すために三菱重工とイギリスのメーカーが巨大ロボットアーム（総重量30トン）を共同開発し、試験運用が予定されていますが、現在、原子炉挿入口に溶融した金属が固着し、アーム挿入は困難な事態とのことです。

海は、全ての生命体の源であり、人類共有の財産です。その海を汚染しないためにも、国と東電は、新たな廃炉計画を作る必要があります。その検討は、今までのように「原子力ムラ」の官僚や御用学者に任せるのではなく、原発に批判的な学者や技術者、市民、自治体職員など全ての関係者が対等な立場で参加し、開かれた論議の場と広報が保証され、国民が納得できる廃炉計画にすることが必要です。

【裏面につづく】

全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL&FAX 045-575-1948  
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp



## 原発は未完成・未熟な技術

原発は原爆製造（1945年7月）の副産物として生まれた技術です。ウラン採掘と濃縮技術、プルトニウムの製造、中性子の減速、持続的な核反応の制御技術などは全て核兵器製造で開発されました。機械・電機・化学・建築等の技術は長い年月をかけ多くの技術者や技能者により研究、工夫、改善され、安全な運転と使用ができ、使用後も安全な廃棄処分が可能になりました。しかし、放射線・X線の発見から140年、核エネルギー研究者から始まった核開発技術は極めて浅いものです。

原発は膨大な核エネルギーを制御するため巨大原子炉・格納容器、中性子制御機構、複雑な配管網と多数の測定器、それらを集中管理するシステムが必要です。原発が未完成・未熟な技術と言われるのは、原子核制御技術（核変換や半減期の縮小）だけでなく、中性子による構造材の脆性劣化

など未解決な課題の顕在化、複雑な配管類の最終的な組み立ては人力に頼らざるを得ないこと、稼働後も点検・修理作業には危険な被ばく作業が不可避なことなどがあります。

最も重要なことは、使用済みの核燃料廃棄物の処理方法が未解決なことです。生物濃縮が危惧される炭素14は半減期が約5000年、プルトニウム239は2万4000年です。使用後に廃棄する方法が未解決な工業製品は「使用禁止」が普通です。しかし、原発だけは核兵器技術の転用のため廃棄処分の方法は考慮されず、トイレのないマンション状態で世界中に広まりました。

巨大な核エネルギーを使う原発は、未完成な技術です。これ以上、死の灰・放射性廃棄物を作らない世界にすることが必要です。原発のない社会は可能であり、次世代の人々が放射性物質の脅威を受けない社会を目指すことが必要です。

【組合員 Y】

# ALPS配管洗浄液 汚染水かぶり事故が発生！ 3次下請会社の作業員が被ばく

- 2023/10/25、4名が汚染水をかぶる身体汚染の事故があった。
- 全身が10万cpmを超え、サーベイメーターが振り切れた作業員Aを含む2名は、福島県立医大付属病院に搬送された。  
(追記：2023/10/28に退院)
- 10/26の会見のあと、10/30の会見では、様々な情報が訂正され二転三転し、多くの疑問が残っている。11/2の会見でも解決されていない。
  - ・漏れい量100mL→数L、正確な量は評価中
  - ・1次請け5名の作業班→3次請け3社が混じっている
  - ・作業員Cがリーダー→Cは実際はリーダーではない
  - ・当日病欠したFさんがおり、AさんBさんの社の作業班長だった
  - ・F作業班長の代わりに2次請けの工事責任者が来たが、現場には入らなかった

「おしどりマコ・ケンの情報発信サイト／OSHIDORI Portal」より  
<http://oshidori-makoken.com/>

## 原因究明中！多重下請けの問題 偽装請負の可能性...